

本マニュアルの使い方

本マニュアルは次のような構成になっています。

クマ類の大量出没への対応

クマ類の大量出没の背景や生息動向、出没状況を示した部分です。マニュアル編を読む前に、基礎知識として参照してください。

マニュアル編

第1部（地方自治体鳥獣行政担当者向け）と第2部（一般住民向け）に分かれています

第1部： 本マニュアルの主要部分です。地方自治体鳥獣行政担当者向けに、次の流れでクマ類出没への対応策を解説しています。

1) 出没を防ぐ 2) 出没を予測する 3) 出没への対処 4) 出没の教訓を活かす 5) 長期的対応

第2部： クマ対策では地域住民による取組も重要です。第2部は、主に地域住民に注意していただきたい事項を取りまとめています。

補足資料： 非捕殺的防除方法として実施地域が広がる一方、そのあり方が課題となっている学習放獣の状況と、対応判断として3県の事例を示しました。

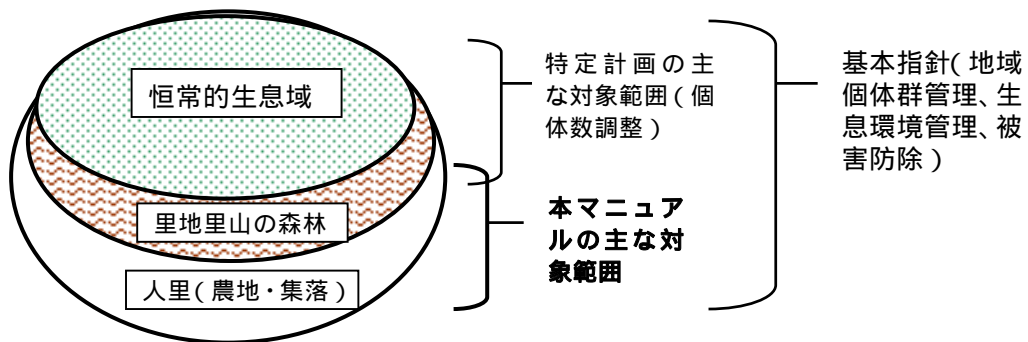
注：個体群保護管理（特定鳥獣保護管理計画）との関連

クマ類のみならず野生動物の保護管理では、生物多様性と生態系保全のため、地域個体群の安定的存続の視点が欠かせません。特にクマ類では、個体数が少なく繁殖率も低いいためその地域個体群の保護管理に注意が必要です。しかし、人里への出没時には、被害防除優先の観点から捕獲（捕殺）優先になりがちです。本マニュアルは、人里への出没防止対策に重点を置っていますが、出没した場合は人身被害を防止するための捕殺を含む適切な対処方法についても述べています。ただし、捕殺数は地域個体群の保護管理計画の中で適切に管理することが重要です。地域個体群の保護管理計画では、特定鳥獣保護管理計画制度が重要な手段となります。クマ類の地域個体群保護管理計画策定を支援するため「特定鳥獣保護管理計画技術マニュアル」が環境省により別途整備されています（第1版は2000年公表、改訂版は2007年中に公表予定）。本マニュアルは人里出没時の緊急対応マニュアル、特定計画マニュアルは地域個体群の保護管理計画策定マニュアルとして、セットで参照してください。

鳥獣の保護を図るための事業を実施するための基本的な指針と本マニュアルの対応

鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律第三条第一項に基づき、環境省が告示している「鳥獣の保護を図るための事業を実施するための基本的な指針」(基本指針)と、「クマ類出没対応マニュアル」は以下のような対応関係になっています。

本対応マニュアルは、クマ類による人身被害防止の観点から、クマ類の恒常的生息域外の人里への出没防止と出没時の対応を中心に述べたものです。恒常的生息域におけるクマ類の生息数管理、生息環境管理及び被害防除対策は、基本指針あるいは基本指針の下にその実施手段の一つとして整備されている特定鳥獣保護管理計画制度に基づき、適正な保護管理の推進が重要です(図0-1、図0-2参照)。



クマ類の恒常的生息域と出没域区分

図0-1 クマ類の生息地と出没域区分に注目した本マニュアル対象地域の模式的区分

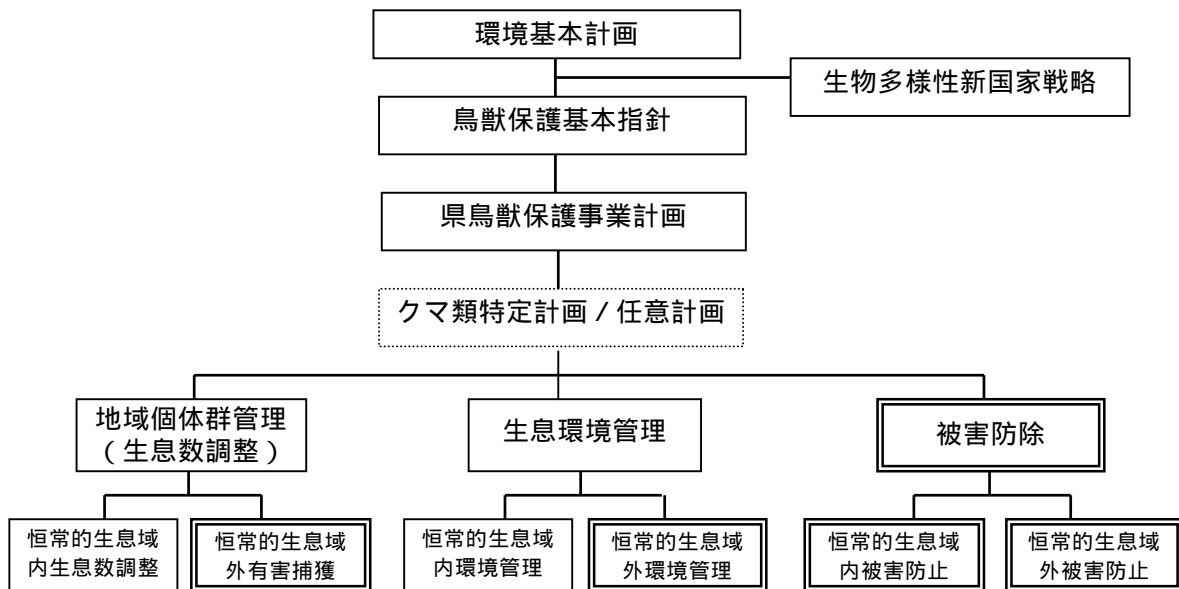


図0-2 各種計画と本マニュアルの対象範囲(二重枠の項目)